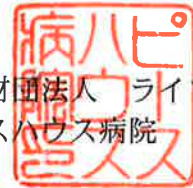


平成24年 3月15日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 一般財団法人 ライフ・プランニング・センター
ピースハウス病院

代表者 院長 西立野 研二



平成23年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 平成23年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業
- 2 期 間 平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
 - IV 収支報告
 - ①助成金の主な使途
 - ②助成金に関わる部分の決算書「写」
 - V 添付書類
研修カリキュラム

I. 事業の目的・方法

1. 目的

ホスピス緩和ケアの実践の場に臨み、自らの体験を通して、また、チームを構成する各専門職からその果たす役割について直接指導を受けることにより、下記の目的を達成できるような研修プログラムを提供する。

研修の目的

- ① 実践を通してホスピス緩和ケアの基本理念を理解し、チームアプローチの実際を学ぶ。
- ② ホスピス緩和ケアに必要な知識、技術、態度を習得する。
- ③ 自施設におけるケアの実践のための具体的な方策がたてられる。

2. 方法

1) 対象

日本看護協会の「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生
同様の体制のもと、神奈川県看護協会「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生を受入れる。

2) 方法

- ・(公財) 笹川記念保健研究財団より年間研修受入れ人数について連絡を受け、他の教育プログラムとのスケジュール調整、研修担当看護師の選抜など、研修受入れのための準備をする。
- ・日本看護協会から研修期間・研修生名簿の連絡を受け、研修に関する資料一式を研修生へ送付する。宿泊施設など、受入れのための具体的準備を進める。
- ・院内各職種に研修予定を連絡し、研修への協力を依頼する。研修期間中も、各スタッフからの研修に関する疑問、意見などを聴く体制を持ち、研修の進め方、運営に反映させていく。
- ・プログラムに沿って研修を実施し、研修の成果について、研修生とともに評価する。
- ・教育委員会を設置し、研修の進め方、指導方法、教材などについて検討し、研修受入れについて常に再評価しながら進める。この教育委員会は、受入れ施設のケアの質向上のために、院内教育プログラムの企画、実践、評価の責任を持つ。なお、研修生は希望により院内教育プログラムへ参加することが可能である。
- ・倫理委員会において、臨床場面で遭遇する倫理的課題について検討し、特に研修受入れに関する患者・家族への影響について十分配慮する。
- ・神奈川県看護協会主催の「緩和ケア認定看護師教育課程研修」に関しても方法は「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」に準ずる。

II. 内容・実施経過

1. 研修期間

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生ともに3週間

2. 研修内容

日本看護協会において基本的な講義を受けているため、研修プログラムは、両受講生とも臨床場で、ナースと行動を共にしながら、ホスピスにおける看護を実体験することが中心となる。その他、チームを構成する各専門職からの小講義、ケアの継続を学ぶための夜間業務や在宅ケアの体験、また、各種勉強会への参加など、各人の研修目的に添って、研修生自らが選択できるプログラムを提供した。

実際には、ホスピスの全体像の理解を希望する研修生が多いため、図1-1を基本の研修プログラムとし、選択制として図1-2のプログラムを提示し、研修生が自己の研修目的に合わせて、学びたいものを選択し、自分の研修プログラムを立案することとした。

認定看護師教育過程の場合は、実際に患者を受持ち、現場の看護師と共に、ケアプランを立て、ケアを実践していく。その際、研修担当者は、研修生がチームメンバーの一員として、多職種との情報交換、協働がスムーズに進められるよう支援する。

3. 研修の進め方

- ・教育委員会において研修プログラムの検討を行い、実際の受入れ準備は教育研究所が行う。
- ・研修担当ナースが、各研修生の目的に沿った研修プログラムの作成、日々のスケジュール調整、研修生とスタッフとの橋渡しなど、研修現場におけるコーディネーションを行う。
- ・研修の実際においては、担当ナースだけでなく、他の看護スタッフも研修生とともに行動する。看護以外の専門職はその役割について直接指導することがあり、また、ボランティア実習においてはボランティアが直接説明するなど、ホスピス緩和ケアに参加する全てのチームメンバーが研修生への指導に関与する。
- ・研修初日の研修目的の確認、最終日のまとめは、研修担当ナース、看護部長、教育研究所所長が出席して行う。
- ・研修全体の責任、コーディネーションは教育研究所所長が担う。

Ⅲ. 成 果

1. 受講者の背景

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生は10名であった。年齢は、25才から46才、平均34.9才、勤務場所については、ホスピス緩和ケア病棟5名、一般病棟5名であった。「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生は4名で、年齢は、31才から38才、平均34.7才であった。

2. 研修生による評価

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生は、事前に日本看護協会より実習報告書が渡されており、最終日に提出していただいている。この報告書の中から、実習期間、時期、プログラムの内容、実習受入れ体制、実習指導体制について、10名の研修生による評価を別紙のようにまとめた。

実習期間：当院は独立型ホスピスという特殊性もあり、第1週目はホスピスケアの環境を理解するのには意義深い時間となっているようであり、2週目以降に多職種体験

を取り入れ、ホスピス緩和ケアの現場を全体的に把握するのには3週間という期間は概ね適切であったようである。

実習時期：日本看護協会において3週間の講義を受け、その後すぐ実習に参加する者と、いったん現場に戻った後あらためて実習に参加する者がいる。概ね、希望通りであったようだが、いったん自施設に戻った後に実習をする場合には、課題がより明確になり、机上の学習を臨地実習で結びつけやすいという意見があった。

実習プログラム：各人の研修目的にそって選択できる方法を取り入れた。ほとんどの研修生が、多職種によるチームケアやボランティアの活動に関心が高く、在宅ケアや教育にも関心を示した。音楽療法やリンパマッサージなど、当院で行われているケアの見学、また、時間外に開催される入院判定会や事例検討会、Study Day（症状マネジメント学習会）などにも積極的に参加していた。看護師以外の他職種の体験や講義の希望がある場合でも、1週目には、ホスピス緩和ケアにおける看護の実験を体験してもらうことが必要と考え、2週目以降に他職種を取り入れるように配慮している。そのことにより、看護の役割や他職種の役割をあらためて理解するのに役立ったという意見があった。「学びたいことを学ぶことができた」という声が多く、研修生自身でプログラムを完成することで、研修への自己責任の意識が高まり、取組む姿勢も積極的になり、各人の満足度を高めたのではないと思う。

実習受入れ体制、指導体制：「安心して学ぶことができた」「連携が取れており、学びがスムーズだった」など、受け入れ体制やスタッフの指導体制について評価をいただき、全ての職員、ボランティアが研修受入れへの必要性、重要性を理解し、実際の指導にも参加していることで研修生からも一定の評価をいただけたものと思う。なお、各研修生の研修目的の達成度などについては、各自の報告書が別途提出されているのでここでは省略した。

3. 認定看護師研修

神奈川県看護協会認定看護師教育課程の研修生受け入れは今年で3年目となった。

研修生の背景として、4名全員が一般病棟勤務であった。入院時から一事例に丁寧に関わることで、それぞれが自身の経験の中で遭遇した課題について再考し、ケアを振り返る様子がうかがえた。また、看護だけでなく、他職種へも関心を向け、チームケアについての更なる理解を深めたようである。研修生は、今回の臨床実習で初めてホスピス緩和ケア病棟に入院している患者を目の当たりにし、時間の使い方や言葉かけに戸惑うことも多かったようであるが、患者を実際に受持ち、ケアに参加していく中で徐々に理解していくことができていた。

4. おわりに

以上、平成23年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業の成果を述べた。

（公財）笹川記念保健研究財団、看護協会、そして実習施設とが、互いに連携・協力をし、今年度も充実した研修プログラムを展開することができた。

一般病棟における緩和ケアの質の向上を目指して研修に参加しているもの、緩和ケア病棟で更なる活動を期待されている研修生にとって、自身の勤務する職場と独立型ホスピスとの環境の違いに戸惑いもあったようであるが、緩和ケアの基本、多職種によるチームケアと看護の役割、症状マネジメントの実際など、ケアの本質は変わらないことを確認する機会となり、学びを深め、有意義な研修になっていたと思う。とくに

多職種についての学びは多く、全職種およびボランティアが参加するカンファレンスについて、院内で働く全ての職種が参加し、それぞれの立場から発言し、意見交換をする場面に参加することは、様々な視点から患者のケアを考えることの重要性に気付く機会になったようである。また、ボランティアの存在と多職種との結びつきが、患者・家族そして看護師をも支えていることへの気付きの報告もあった。このような研修生からのフィードバックは、ピースハウスで働くスタッフ・ボランティアにとっても大きな励みとなる。そして、当たり前存在している相手への信頼と尊敬、感謝の念をあらためて思い起こす機会とさせてくれたように思う。

独立型ホスピスとして開院19年目を迎えた今、チームメンバーが互いに支え、支えられてホスピスケアを実践できているということを忘れずに、これまで以上に自らのケアの質の向上に努めるとともに、今後も、積極的に研修生を受け入れ、ともに成長する機会としていきたい。

平成23年度「緩和ケアナース養成研修」実習報告(一部抜粋)

1. 実習期間はいかがでしたか

適当	短い	長い	計
10	0	0	10
100%	0%	0%	100%

実習期間



- ・ 1週目に日勤の流れ、2週目に多職種、3週目に総まとめをするにはちょうど良かった
- ・ 多職種の講義や関わりを持つことが十分にできた
- ・ まだまだ学びたいことはあり、短く感じたが、基本的な部分と考えると3週間は適当だと思う

2. 実習の時期はいかがでしたか

希望通り	どちらともいえない	希望にあわなかった	計
6	4	0	10
60%	40%	0%	100%

実習時期

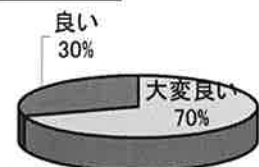


- ・ 講義の後、すぐに実習した方が習った知識が頭に残っていて良かったかもしれない
- ・ 希望した時期とは全く異なったが、実習する中で不都合はなかった
- ・ 講義との間が長かったので、学びを具体的に結びつけるのが難しかった

3. 実習プログラムの内容はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
7	3	0	0	10
70%	30%	0%	0%	100%

プログラムの内容



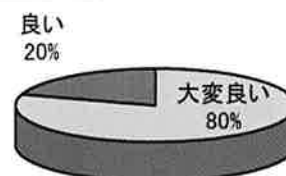
- ・ 学びたいことを学ばせていただけるプログラムであった
- ・ 実習についての希望をスケジュールに入れてもらえた
- ・ 自分の学習したいことを全て組み入れてもらえた
- ・ 毎日違う指導者と関わることができ、様々な対応を拝見できた
- ・ 想像以上にたくさんのプログラムが選べる状況にあり、大変ありがたかった

4. 実習の受け入れ体制はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
8	2	0	0	10
80%	20%	0%	0%	100%

- ・ 指導して下さい方が皆、親切丁寧に実習させて頂いた
- ・ 安心して学ぶことができた
- ・ みなさん優しくかった
- ・ 様々な方のご理解があり、色々経験できた
- ・ 細かな面にも配慮して頂き、慣れない土地でも安心して実習できた
- ・ スタッフの方々に親切にしてくださる、たくさんのことが経験できました

受け入れ体制

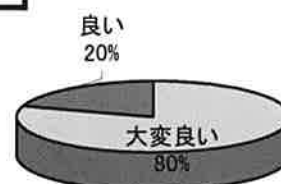


5. 実習の指導体制はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
8	2	0	0	10
80%	20%	0%	0%	100%

- ・ 連携が取れており、学びがスムーズであった
- ・ 質問に丁寧に答えて下さった。見て学ぶことも多かった
- ・ 今までの経験なども踏まえて教えていただいた
- ・ 毎日違うスタッフに指導していただくことで、日々、新しい発見がありました
- ・ どの方も、とても熱心であり、姿勢も含めケアについて学ぶ機会をいただけた

指導体制



以上

図1-1

平成23年度 研修プログラム(基本)

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1週	月											
火												
水												
木												
金												
第2週	月											
火												
水												
木												
金												
第3週	月											
火												
水												
木												
金												

図1-2

平成23年度 研修プログラム(選択)

※ 研修プログラムの調整

実習はナースとともに行動し、ホスピスにおけるケアの実際を学ぶことが基本であるが、各人の研修目的に応じて、他の学習の場(□□)で表示)を選択することができる。
研修プログラムの調整は、研修生の希望をもとに看護部長又は研究所長と相談ながら、研修担当ナースが行う。

※ 患者の受け持ちについて

短期間の研修のため、基本的に患者を受け持つということはないが、研修生の希望があれば、同じ患者の看護に継続して参加できるようアサインメントを工夫する。

※ 研修期間中に開催される事例検討会、Study Day、ホスピスケア研究会、地域緩和ケア研究会、について、研修生の希望がある場合は参加可能とする。

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1週	月											
火												
水												
木												
金												
第2週	月											
火												
水												
木												
金												
第3週	月											
火												
水												
木												
金												

共通体験

希望により体験

希望により体験